

Live119（映像通報システム）実証実験について

1【現状】

- (1) 通報者から詳細な状況等を把握する手段としては、**電話による聞き取りが中心で、会話の内容から指令管制員が判断し**、その情報を消防隊に伝達している。
- (2) 通報者へ心肺停止状態の傷病者に対する蘇生法を口頭指導する際、指令管制員は電話越しに伝えなければならない、**正しく相手に伝わっているか、常に不安を感じながら口頭指導**を行っている。

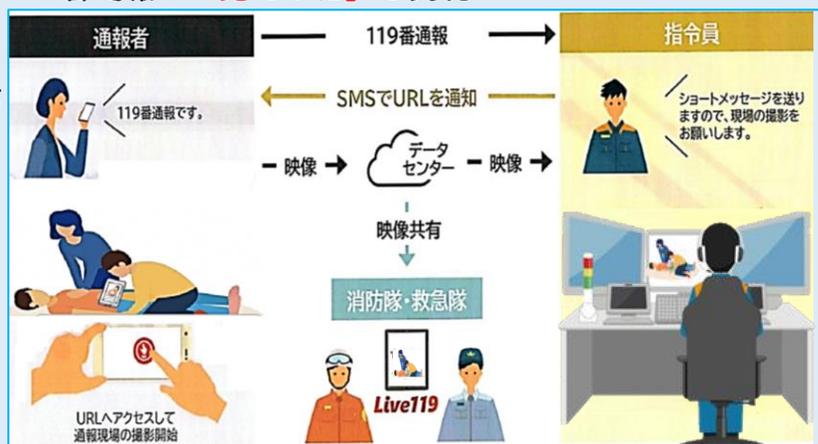
2【課題】

- (1) 音声のみによる災害現場状況の把握は困難
年間5万件を超える119番通報の中には、音声通話のみでは状況把握が困難な場合があり、**聴取した内容と実際の現場の状況に差異がある**ケースが全体の約1割程度。
- (2) 音声のみによる口頭指導は理解しにくい
心肺停止の状況下で、蘇生の方法を電話越しに言葉で説明（口頭指導）するものの、**「わからない」「やったことがない」**という理由から、効果的な救命処置ができないケースがある。

3【対策】

■Live119を活用し、音声による119番通報の「見える化」を実現

- ① 通報者⇒119番通報
- ② 指令管制員⇒通報者へSMSでURL送信
- ③ 通報者⇒URLを開く
- ④ 通報者⇒**撮影開始**
- ⑤ 指令管制員⇒消防隊等へ映像配信
- ⑥ その他
見本動画を通報者へ配信も可能
例：心肺蘇生法
救急応急処置法
消火器取扱いなど



4【効果】

- 通報者からの映像を消防隊へ伝達することで、効果的な活動による被害の軽減。
- 通報者等へ、適切かつ効果的な口頭指導の実施。

※災害における被害を最小限にとどめ、市民サービスの向上を図る。

令和4年度 実証実験開始

5【今後のスケジュール】

時期	実施内容
令和4年 7月	実証実験 市民への広報開始
令和4年 8月	実証実験開始
令和4年 10月	情報システム導入協議
令和5年 1月	実証実験終了